



防災グッズ 児童が挑戦

東山 京都DWA Tが体験教室

京都府災害派遣福祉チーム「京都DWA T」主催の

防災ワークショップが8日、京都市東山区の新道児童館で開かれた。台風5号が近畿を通過した直後とあって、児童たちは防災対策に関心を寄せ、段ボールを使った防災グッズ作製や高齢者体験に取り組んだ。府は、避難所生活における心身の悪化などの二次被害を防ぐため、2016年3月に社会福祉士や介護福祉士らでつくる京都DWA

段ボールで作ったベッドに乗って強度を確かめる児童たち（京都市東山区・新道児童館）

Tを結成した。府内各地で計12チーム123人が登録し、翌4月の熊本地震の被災地でも活躍した。

ワークショップは、京都DWA Tの京都市東山・山科・醍醐エリアチームが、京都華頂大（東山区）防災サークルの協力を得て実施した。地元の小学生約30人が参加した。

児童たちは、段ボール箱を組み合わせてベッドやげた箱を作ったほか、足や首に器具を取り付けて負荷をかけ、高齢者の体の動きを疑似体験した。開講小3年の松本亮汰君（8）は「段ボールのベッドがとても頑丈で、びっくりした。災害は怖いのでしっかり備えた」と話していた。

（小野俊介）